

学校評価シート（R5年度）

<p>東海市立加木屋南小学校</p> <p>住所 東海市加木屋町泡池2番地 電話番号 0562-34-9303 校長名 戸澤 充則</p> <p>アンケート数 ・児童…403人(4.5.6年生)・保護者…507人 ・地域住民…31人・教員…47人 児童 815 名 31学級（内 特支4）</p>		<p>○ 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 「東海市教育基本方針」の基本理念を受け、「自ら求めてたくましく生きぬく子ども」を育てることを目指して、「知・徳・体」の調和のとれた児童を育成する。 <p>○ 地域の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 東海市西部の臨海工業地帯の開発に伴う人口増加により、住宅開発された55年目を迎える地区である。教育に熱心な家庭が多く、学校にも大変協力的である。また、地域コミュニティの活動は活発である。 	資料等			
中期目標	今年度の目標	評価方法(アンケート項目)	結果の分析	成果(○)と課題(●)	学校支援協議会 令和6年1月30日	来年度の改善策
知	<p>自ら学び、最後までやり抜く児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習規範の確立と、国語、算数を中心に基礎基本の徹底を図る。 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくりを追究する。 正しい情報の収集・整理の仕方を身に付けさせ、活用する力の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容が分かる。(児童) 授業は楽しい。(児童) 先生は熱心に教えてくれる。(児童) 分かる授業を実践している。(教員) 楽しい授業を実践している。(教員) 子どもは授業内容を理解している。(教員) 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容が分かると答えた児童は、88.9%で昨年度とほぼ同様であった。→ 授業は楽しいと答えた児童は、68.0%で昨年度と同様であった。→ 先生は熱心に教えてくれると答えた児童は、90.8%で昨年度から微増している。↑ 分かる授業を実践している教員は、86.3%から87.3%と微増している。↑ 楽しい授業を実践している教員は、81.8%から84.3%上がった。↑ 子どもは授業内容を理解していると答えた教員は、84.3%から87.2%上がった。↑ 	<ul style="list-style-type: none"> 児童にとって楽しく・分かる授業を目指して、教員が情報交換を行いながらさらなる授業力向上を目指してきたが、昨年度に引き続き、授業が楽しいと答えた児童の割合が7割を下回った。 先生が熱心に教えてくれると答えた児童の割合は高い。教師の思いや情熱が児童に伝わっているが、楽しいと実感させる工夫と手当てが必要である。 「楽しい授業」については児童と教員と15%の差があり、今年度は教員が実態を把握する力や個に寄り添いながら支援する力を養うことなどに努めてきたが、異なる視点でも工夫していく必要がある。 教員は、現職教育で「主体的に学び、考えを深める児童の育成ーICTを活用した、伝え合う授業づくりを通してー」をテーマに向上研究に取り組んだ。児童一人一人の意欲や学力の向上を目指すとともに、ICT機器を効果的に活用し、考えの可視化や他者との交流場面を取り入れ、児童が主体的かつ考えを深められるよう実践を続けた。個に応じたきめ細かい指導で、全児童に充実感を味わわせ、考えを深めたいと願い、研究授業を行ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 参観から、ICT機器を活用し、児童が楽しそうに授業を受けているのが分かる。児童の個別の課題にも先生方がよく対応してくださっていると感じる。 先生方が楽しい授業・分かる授業を行うために一生懸命に取り組んでくださっていることが9割前後という数値によく表れている。 「授業が楽しい」と答えている子は7割に満たずR3から徐々に減少しているのが気にかかる。「分かる」以外に「楽しい」と感じられる要素があるのか検討し、授業に生かしていく方法等幅広い視野で取り組んでいただきたい。 教師用アンケート「教職員間の相互理解や信頼関係ができてきている」の数値が減っている。働き方改革が進められているにもかかわらず、このような結果になっていることを精査し、先生方が心身ともに健康で楽しく誇りをもって働ける環境をつくっていただきたいと思う。 コロナ禍以前の学校に戻りつつある中で、運動会も参観できた。楽しそうに全力で取り組む姿を直接見られ、子どもたちのもつ力を発揮できる場を確保できるありがたさを感じ、幸せを感じた。今後も共通の目的に対してともに取り組む喜びを感じられる行事など経験の場を与えていただきたい。 校内授業参観時には大変落ち着いた様子だった。 先生方には自信をもって「よくあてはまる」が選べるようになるようお願い。 	<ul style="list-style-type: none"> 現職教育の研究主題「主体的に学び、考えを深める児童の育成」は2年目を迎える。今年度の課題を明らかにし、「分かる授業」「楽しい授業」づくりに向けて一層の推進を図る。 ICTを活用して導入、可視化、振り返りの面ですらに工夫を重ね「伝え合う力」の育成に取り組む。 各担当が実態の把握に努め、一人一人の児童に寄り添い、努力を認め、自身で達成感を味わえる学習の実現を図る。 高学年の一部教科における教科担任制、算数の少人数指導、ITなどを取り入れ、授業の質的な向上を図り、児童が意欲的に取り組む授業づくりを進める。
体	<p>健康な心と体をもち、丈夫な児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身に付けさせ、心身ともに健康で安全な生活を営みながら、集団生活の中で自他ともに向上しようとする意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 早寝早起きなど規則正しい生活をしている。(児童) 子どもには毎朝、朝食を食べさせている。(保護者) 交通安全に気を付けている。(児童) 学校は子どもたちの安全に配慮した取組をしている。(地域) 子どものことについて適切に相談に応じている。(教員) 先生は誰に対しても公平に意見を聞いてくれる。(児童) 	<ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活をしていると答えた児童は、71.4%で昨年度とほぼ同様であった。→ 朝食を食べる児童は、97.0%で高い数値を保っている。 交通安全に気を付けている児童は、93.5%から95.8%になり高水準である。↑ 安全に配慮した取組をしていると答えている地域住民は、88.5%から77.4%に下がった。↓ 適切に相談に応じている教員は94.1%から89.4%に下がった。↓ 先生は公平に意見を聞いてくれると答えた児童は、82.7%で横ばいだった。→ 	<ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活をしている児童が大半であるが、逆に意識していない児童への手当てを考えていく必要がある。 朝食を食べる児童が多く、家庭の教育力のおかげで児童は毎日元気に過ごすことができ、健康に生活していこうとする態度を身に付けることができ 安全に気を付けている児童は、今年度9割以上となった。PTA各支部役員の皆様のご指導・支援の賜である。今後も正しい登下校の仕方、道路で遊ばない等の安全に心がけた地域での生活ができるよう継続して指導する。 月に一度のKYT登校やシェイクアウト訓練は今年度で3年となる。各種避難訓練等と合わせて学校の取組について理解されるようになってきたが、地域から寄せられる声を真摯に受け止め児童へ個別指導を適宜行っていく必要がある。 教員が相談に応じているつもりでも、子どもからみればそうではない状況もあるが昨年度から改善しておらず、児童に寄り添う基本姿勢を今一度見直し、信頼関係を築けるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活、朝食を食べる登校の回答から、よい環境で子どもたちの生活が送られていることが分かる。身体の健康はもとより心の安定のためにも今後もよい結果に繋がるようにしたい。 保護者に自信をもって児童を指導してもらうために、保護者向けの学習会や研修会を開催してはどうか。 コロナ禍以前の生活様式に近づき公園等で遊ぶ姿を多く見られるようになった。うれしい限りだが、遊具の使い方、自転車のマナー等、地域の大人も見守り、子どもたちが安心・安全に過ごせるようにしていく必要がある。 規則正しい生活をしていない児童が1/3近くおりスマホやタブレット端末の影響が、児童が依存症予備軍にならぬことを願う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に規範意識を定着させるために、集い、昼の放送、学校・学年だより等を活用し、指導内容を徹底する。担任は各学年の発達段階に応じて、児童が行動できるよう繰り返し指導を行う。また、はきものそろえなどの児童による活動を推進していく。 養護教諭・保健主事を中心に手洗いや換気などの感染症対策としてよい習慣が維持できるよう現在の取組(風邪予防週間・生活リズム点検等)を継続する。 KYT登校、シェイクアウト訓練を継続し、児童の安全意識を維持できるよう努める。大雨や不審者対応など多様な状況に対する取組を充実させ、地域との連携を図る。 教職員は児童理解に関する研修を受